

若葉、青葉をわたる風も快く感じられる季節となりました！

連休も明け、今日からまた、子ども達の園での生活が始まりました。

子ども達の中には、連休中、園での生活から離れていたのに慣れるのに少し時間を要する子どもがいるかもしれませんので、その辺りを考慮に入れながら保育・教育に当たっていきたいと思います。

いずれにしても、新緑の爽やかな5月は、子ども達にとって活動しやすい季節です。室内だけでなく、屋外での遊びや活動を通して、本園の教育方針である「強いからだで元気にあそべる子」、「思いやりのあるやさしい子」、「なにごとに自ら進んでできる子」に育てていきたいと考えています。

教育雑感 シリーズ3

~チューリップの歌~

幼稚園や学校、公園、家の花壇などでひときわ目立って華やかな春の花、チューリップ。この花を眺めていると、春の太陽のように、明るく踊るようなイメージを感じ、まさに春花壇の主演を演じているように見えます。

私は、以前、このチューリップを歌にした「チューリップの歌」を題材に、子ども達に人権尊重の大切さについて話したことがあります。その一部を紹介してみます。

“咲いた、咲いた、チューリップの花が、並んだ、並んだ、赤、白、黄色、どの花見てもきれいだな”の「チューリップの歌」は、子どもに限らず、大人の誰もが知っていると思います。

秋に球根が植えつけられて寒く厳しい冬を乗り越えて、春に精一杯咲きほこるチューリップの花を見て、誰もがきれいだなと思うことでしょう。特に、この歌が伝えようとしているメッセージは何かというと、「私は、赤のチューリップがきれいだと思う。」、



k7148559 www.fotosearch.jp

「僕は、黄色のチューリップがきれいだと思う。」と特定の色のチューリップだけに目を向けるのではなく、どの色の花も懸命に生きている姿に感動し、また、どの色の花も同じように美しいと感じ、きれいに思える心を持つことが大切であるということです。

この歌は、チューリップの花の美しさを短い歌詞にまとめてあるので、つい口ずさみたくなるような親しみがあります。それとともに、じっくりと詩を読み味わって歌ってみると、なんと思いやりに満ちた歌だろうと改めて気づかれます。

～上手な叱り方～

上手に叱るということは、意外と難しいものです。叱ったことが本人のためになればよいのですが、逆に相手の心を傷つけてしまうと、後々のコミュニケーションが取れにくくなってしまいます。

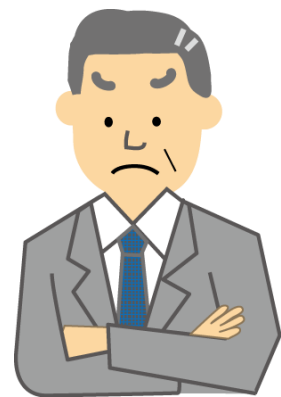
叱るときに特に注意しなければならない点の一つは、即座に叱ることだと思います。しかもその場できっちり叱ることです。かなり後になって、本人も忘れかけた頃に、「あの時、〇〇ちゃんのしたことは・・・」と叱っても、その効果は期待できないと思います。

もう一つは、反省すべき点や改めるべき点を相手に分からせるためにも、理由を具体的に言ってから叱ることが大切だと思います。特に小さな子どもは頭ごなしに叱ると、本人はなぜ叱られているのか理由がよくわからないので、気を付けたいものです。

また、その場で叱ることができなくて、どうしても後になって叱る必要が生じた場合は、それとなくやんわりと叱ることが大切だと思います。例えば、叱る内容によっては、個別に叱ったほうが良い場合がありますので、そんな時は、後でやんわりと叱った方が効果があるように思います。

なぜやんわり叱った方がよいかというと、時間が経過すると、ミスをしたり、人に迷惑をかけたりした自分のしたことについて反省する機会が持てるからです。「あの時は悪いことをしてしまった」と本人なりに思っているはずですが、その本人なりの反省に追い打ちをかけるように厳しく叱ってしまうと、かえって叱ることの効果が薄れてしまうと思います。

上手な叱り方のキーポイントは、「一貫性を持たせる」、「即座にきっちり叱る」、「理由を付けて叱る」ということでしょうか。



～子どもを心の目線でとらえる～

よく子どもの目の高さや心の目の高さで子どもに接しようといわれます。小さな子は身体も小さいですし、精神的にも未発達ですので、とりわけ目の高さや心の目の高さでの接し方が、求められているのだと思います。

以前、子どもの目の高さで見てみようと、ビデオカメラを小さな子どもの目の高さくらいにして、校舎のあちこちを歩いてみたことがあります。後で、ビデオをじっくりと観てみますと、日ごろ何気なく歩いている時とは違ったように校舎内の景色が私の目に映りました。

子どもの目の高さでものを考える、歩いうことを、あらためてかんがえてみますと、日ごろでは目に入らない壁の傷などが目にありますし、校長室の、ぼつての穴から校長室がのぞけるといいうことがあります。

それとともに、ひょっとしたら、目的地に向かいまっしぐらに歩く大人には見えないものや気付かないことを、道草（今はほとんど使われなくなった言葉ですが・・・）をしながらのんびり、ゆったりと歩く子ども達の方が、多くのものを発見したり、気付いたりしているかもしれないと思いました。

